古江台中学校ブロック（古江台中学校　古江台小学校　津雲台小学校　はぎのきこども園）

こ小中連携通信　JOINT　No.41　2019．9．10

古江台中学校ブロック　夏季合同研修会

7月26日(金)13:45～17:00　古江台小学校

【講演会】　**「学校でできる発達課題のある児童・生徒への指導方法」**

講師　千里金蘭大学　准教授　齋藤　富由起　様

千里金蘭大学 生活科学部 児童教育学科でご活躍されます齋藤 富由起 准教授様を講師にお招きし、古中ブロックの合同研修会を開催しました。

初めに、発達課題のある児童・生徒に対して『どうみるか』について話されました。児童・生徒を『どうみるか』が、その後の対応の５０％を占めており、『どうみるか』を大切にすることで児童・生徒は「自分への理解がある」「自分を理解してくれる存在がいる」と認識し、児童・生徒や保護者が他の機関につながりやすくなることを学びました。また、その理解者は保護者や担任、クラブ顧問、学年主任、養護教諭、SC、SSW など、児童・生徒の個別のケースによって変わることから、一人で抱え込まず学校組織として当該児童・生徒に関わる重要性を再認識しました。

次に、距離感をつかめない、まっすぐ立てない、ぶつかりやすい等の児童・生徒への対応として『ビジョントレーニング』の指導法をペアになって体験しました。左右・上下・斜め等に動かした指を、頭を揺らさず目線で追っていくもので、３分程を週２回、２か月繰り返し練習することでノートを書くことが速くなったり、片目ずつ動かすことができたりする効果が見られるようです。また、力の入れ方が不器用、日頃は何でもないのに怒った時に力を抜くことができない児童・生徒への対応として『怒りのコントロールの SST』も行いました。姿勢を良くし、呼吸を止めないことで、力んでいた時よりも力を出せることに「すごい！」と参加者からも声が上がりました。このように力を入れすぎると負けることを体感できるトレーニングを、ゲーム感覚で取り入れることで、力まずストップできる体を作っていけることを体感しました。

全体を通して、「よく見て、よく聞いて」を意識すること、「言葉でないスキル」「身体のスキル」を学ぶこと、「発達の固有の方法を知っておくこと」の重要性について深めることができました。この研修で学んだことを活かし、中学校ブロック全体で児童・生徒一人ひとりに合った細かな対応に取り組んでいきましょう。夏季研修への多数のご参加、ありがとうございました。

【分科会・分科会報告】

こども園指導要領の５つの領域（健康、人間関係、言葉、環境、表現）に加え、特別支援、事務連携の７つの分科会に分かれました。領域内容における現状報告を行い、その中から問題点について出し合い交流し、さらにそこからそれぞれのつながりの中でどうすれば良いかを話し合いました。分科会後、再び全体で集まり、各分科会で出された意見や問題点などを報告し、参加者全員で共有しました。

＜事務連携は、「職務における連携」について情報交換＞

☆★☆

古中ブロック公開授業　７月９日（火）６限目

古江台小学校３年３組　道徳　「明るくなった友達」　授業者　水口 岳志　先生

講師　吹田市教育委員会指導室　指導主事　川添 龍次　様

授業では、水口先生の範読によって場面を区切り、自分だったらどうするかということを考えました。スケールチャートとマグネットを利用して、児童が立場を明確にし、自分の意見を持つことができるように工夫をしていました。安心できる学級の雰囲気の中、素直な気持ちを伝えている児童の姿が見られました。意見を交流する中で、どんな友達であっても互いに理解し、困っているときには進んで助けようとすることの大切さを考えていきました。

その後の全体交流では、スケールチャートの使い方や板書の仕方、児童への発問、グループ交流の仕方についてなどの話し合いが出来ました。

講師の川添様からは､「言語力育成と道徳科活動指導のかかわり方」についてお話していただきました。道徳の授業だけのルールを作るなど、安心して意見を言い合うことができる雰囲気を作ることが大切だと教えていただきました。また、児童の「万能語」について注目され、隠されている気持ちを言語化できるようになることが必要だと教えていただきました。二人組での伝言ゲームを通して、言語化することの難しさや大切さを感じることができました。一時間の授業で児童の考えや行動を変えようというのではなく、授業を積み重ねていきながら多面的・多角的な考えを持たせ、いつか実践的に生かすことができるようにという意識で授業を行いたいと思います。